キジ山古墳群（きじやま）

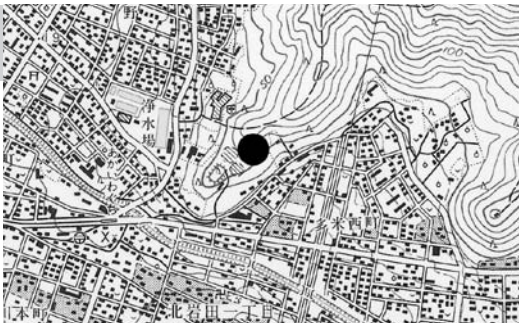
所在地　豊橋市多米町
（北緯34度47分22秒 東経137度26分15秒）

調査理由　愛知県水道用水供給事業

調査期間　平成21年4月～6月

調査面積　500㎡

担当者　池本正明・永井邦仁



調査地点（1/2.5万「豊橋」）

調査の経過　調査は、愛知県水道用水供給事業にかかる範囲確認調査として、愛知県企業庁東三河水道事務所から愛知県教育委員会を通じて委託を受けたものである。キジ山古墳群の規模と分布範囲を確認することを目的として、テストトレンチ(以下T.T.と略)を総計105箇所に設定した。

立地と環境　遺跡は豊橋市市街地の東方に位置する。遺跡の立地する丘陵部は石巻山系の尾根のひとつで、標高35～76mである。尾根の末端には豊橋市水道局の上水道タンクがあり、その北側が範囲確認調査の対象となった。

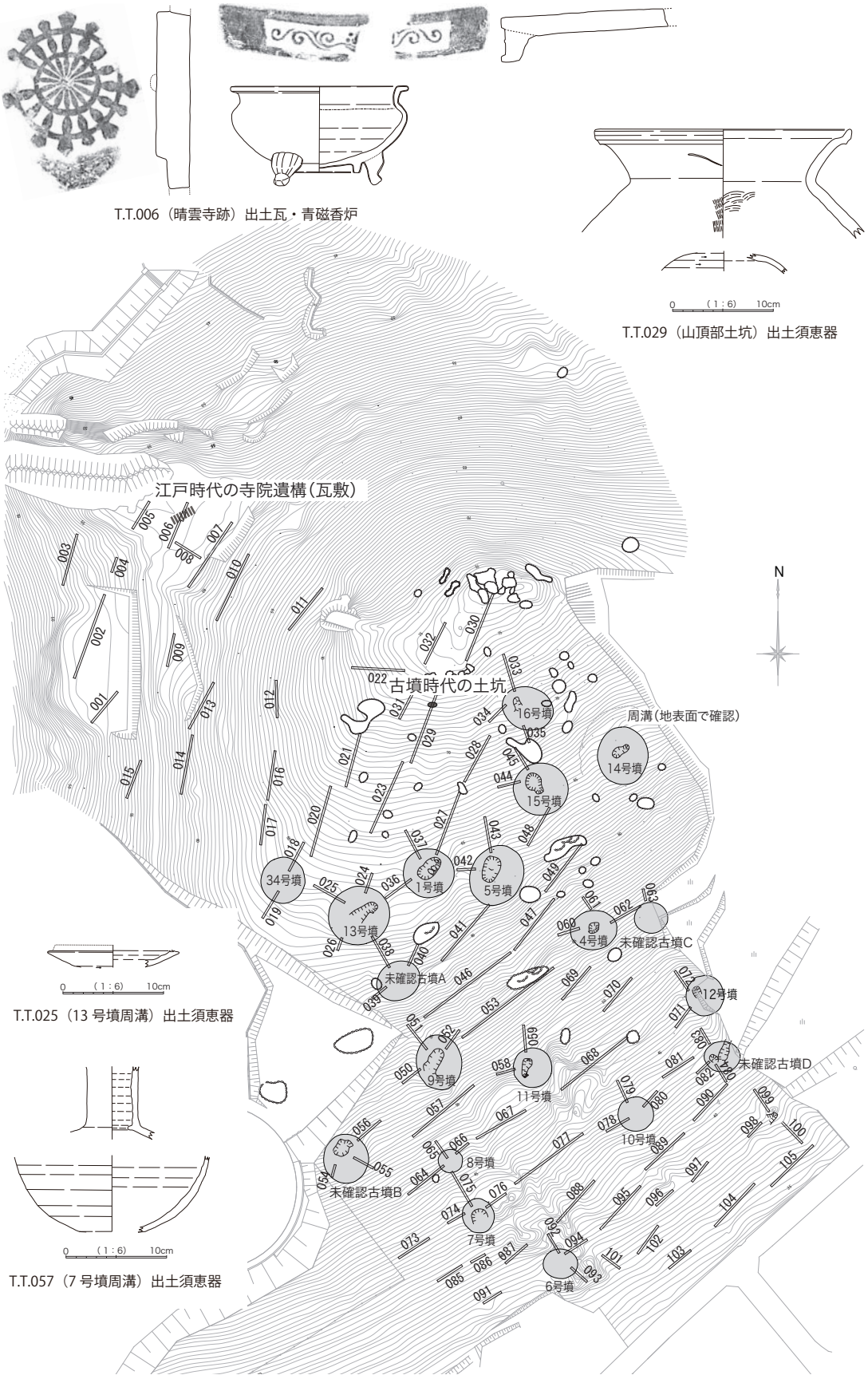
調査の概要　調査では、既知の古墳の周溝を含めた大きさを確認した他、新たに4基の古墳の存在が明らかにすることができた。また尾根筋頂部では古墳時代後期の土坑、尾根筋西側斜面では江戸時代の寺院跡を確認した。

キジ山古墳群　キジ山古墳群は横穴式石室の古墳時代後期の群集墳である。石室の損壊が激しく、石材が認められたのも1・5・11号墳と少ない。墳丘直径は6.0～15.5mで、周溝幅は約1.5～3.0mである。周溝からは須恵器が出土した。T.T.018（34号墳）では甕、T.T.025（13号墳）では7世紀後半代の杯身、T.T.044・045（15号墳）では瓶類、T.T.075（7号墳）では7世紀代のフラスコ瓶が出土した。新たに確認された古墳4基のうち調査対象地西側の2基（未確認古墳A・B）は現況で墳丘が視認できる。東側の未確認古墳Cは墳丘の一部とみられる直径3mの高まりのみ、同Dも同様であるが墳丘盛土とみられる版築状の堆積が確認できた。

古墳時代後期の土坑　T.T.029では、幅1.6m深さ0.3mの土坑を確認した。多数の10～15cm大に破砕された石の他に須恵器甕・杯が出土した。須恵器は6世紀後半～7世紀前半とみられ古墳群にやや先行する時期である。土坑の性格は不明である。

晴雲寺跡　西側斜面から突き出す巨岩（通称屏風岩）付近には平場がある。T.T.006では北東～南西方向に伸びる溝状の瓦敷遺構や土坑が確認された。瓦は18世紀代で軒平瓦や輪宝文の棟板瓦も出土した。土坑からは青磁鉢が出土した。瓦敷遺構は建物雨落ち溝の可能性があり、青磁鉢の存在も考え合わせると仏教施設であったと想定される。『多米郷土誌』などによると、18世紀前半に「屏風山晴雲寺」という寺院の存在が知られ、今回確認された遺構・遺物が該当する可能性がある。

（永井邦仁）



テストトレンチ配置（1:1500）と主な出土遺物